～水を安定的に送水するために～

通水管の空水調査を実施

令和元年 11 月下旬～12 月上旬に、霞ヶ浦用水の通水管（1 号サージタンクから 2 号サージタンクまでの区間約 6.5km）から水を抜いて、管内部状況の調査を実施しました。

霞ヶ浦用水のパイプラインは、昭和 63 年度の暫定通水開始前に造られ、約 30 年以上用水の通水を行っています。このパイプラインは鋼管やダクタイル鋳鉄管で出来ており、長く使用していると錆が発生するなどの劣化が進み、場合によっては壊れて漏水してしまう恐れがあるため、適切な点検と補修が必要となります。

現在は、管内施設の状態調査が完了し、調査結果の取りまとめを行っているところですが、職員が管内確認したところ、異常はありませんでした。

【実施内容】

・目視調査・・・・・・内面を目視により発錆やひび割れなどの確認を行います。

・たわみ量調査・・・・縦横の長さを計測することで、円のたわみを確認します。

・継ぎ目間隔測定・・・ﾀﾞｸﾀｲﾙ鋳鉄管はつなぎ合わせているため、その間隔などを確認します。

・可とう管偏心測定・・構造物の付近にはｺﾞﾑ製等の可とう管があり、その偏心を確認します。

・内面塗膜調査・・・・鋼管の腐食防止のための塗装の厚さを確認します。

職員が管内面の状況を目視確認。

職員が管内面の状況を確認。

ﾀﾞｸﾀｲﾙ鋳鉄管の継ぎ目前後の角度を確認。

人が入れないところは自走式ｶﾒﾗを走らせて確認。